

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072900378		
法人名	医療法人 寿栄会		
事業所名	グループホーム笑顔		
所在地	福岡県小郡市三沢528番地3 (電話) 0942-73-1222		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 30 日	評価結果確定日	令和 5 年 12 月 11 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・一日の大まかな流れは決まっているが、時間にとらわれることなく、入居者様の生活リズムを尊重している。特に、起床時間、朝食は各自、自由である。

・献立食材は併設する病院の栄養科にお願いしているが、調理は業者に委託することなく職員が行っている。食材を見ながら、入居者の好みに合った献立に変更することもある。おやつも手作りだけでなく、お取り寄せや店での購入など、多様に対応している。

・数名ではあるが、併設する認知症デイケア（医療保険）に週1回通うことでグループホームの職員だけでなく、他者と接することで、社会との関りがもてている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 18 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、周辺を緑に囲まれた自然豊かな場所にあり、同法人病院の敷地内の一角に位置している。広大な敷地には、グラウンドや売店があり、利用者の日々の散歩や買い物に活用されている。事業所は2つのユニットから構成される建物は木材をふんだんに使用した平屋建てであり、共用部分は天井が高く、南に向けた窓から明るい日差しが差し込んでいる。月に2回、利用者が食べたい食事を提供する食事会を行っている。コロナ禍前は、地域との交流を積極的に行っており、来年度からまた地域との様々な活動を再開できるように準備を進めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の目の届く所に、介護理念を貼り、職員が常に意識できるようにしている。終礼時に一日を振り返り、自己を省みるとともに、理念に基づいた支援を行うことができるように確認している。	事業所には地域密着型の視点がある事業所独自の理念があり、終礼の際に唱和し、理念に基づいた支援ができていないかを振り返るようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（夏祭り、初午など）に参加したり、地域の中学校の職場体験を受け入れたを行っている。入居者様にとって、中学生の訪問は、子供や孫を思い出す、良い機会になっている。	事業所は自治区会に加入し、母体法人が発行する広報誌を、自治区長に配布している。コロナ禍前は、地域の神社のお祭りに参加し、スタッフによる出し物をしたり、事業所の行事には、ボランティアが参加したりと積極的な交流が行われており、来年度から徐々に行事参加することを計画している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の中で、入居者様の生活の様子を伝えながら、認知症への理解を深めている。今後は、認知症サポートの研修開催など行いながら、施設を開放し、地域の方々が気軽に訪問できる場を作っていくことが課題である。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域関係者の方々に参加していただき、施設の状況説明や福祉制度に関する情報交換を行ったり、地域の老人会の取り組みを聞いたりしている。地域に暮らす高齢者の状況等を知ることとなり、学びともなっている。ご意見を参考にして施設改善に前向きに取り組んでいる。	運営推進会議は2ヶ月に1回、集合形式で開催している。会議には、町内会役員や行政職員が参加し、現在の活動状況や介護保険情報等を話し合い、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の開催する研修に参加したり、運営推進会議に参加していただき、事業所の実情や取り組みを報告している。介護保険の疑問などは、随時、相談するように心掛けている。	管理者が、市の企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーとして活動する等、行政と協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていない。研修や内部の勉強会を通じて、身体拘束に関する認識を深めている。疑問に思うことがあれば、終礼の時間を利用して、意見交換や学びの時間を設けている。	身体拘束に関するマニュアルがある。事業所の玄関は日中開放している。点滴などの医療行為の際も、職員が立ち合い、複数で見守ることで、身体拘束をしない支援を行っている。一部の職員が研修に参加し、伝達研修を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、職員全員が理解し、防止に努めることができるよう、勉強会を行っている。入居者様同士もトラブルに発展しないように、職員間でも、情報の共有を行いながら対応している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が開催する権利擁護に関する研修に管理者、職員が参加している。入所時、ご家族へ制度の説明を行い、相談があれば、その都度、対応している。職員はいつでも対応できる姿勢でいる。	契約時に成年後見制度について、家族等に説明している。制度の資料を設置し、必要に応じて家族等に説明している。制度の理解のために、外部研修や法人内での研修の機会を設けている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時だけでなく申し込みの際も、料金については詳細に説明し、理解をいただいている。報酬加算の必要性、料金改定、重度化に伴う説明も、その都度、説明や話し合いを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時にグループホーム内の相談窓口の存在と重要事項説明書の中に、外部の相談窓口を記載している旨伝え、説明を行っている。ポスターも掲示している。支払いなどでの訪問の際や電話などでこまめにコミュニケーションを図り、困りごとの相談や意見を引き出している。	利用者が食べたい物があれば、月2回の食事会や喫茶店を企画して、希望に沿った食事を提供する等、利用者の希望を運営に反映させている。家族からの意見や要望は、手紙やLINE等を活用して聞き取りを行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について困難が生じた場合、その都度、意見や提案を聞く機会を設けている。その他、意見や提案を法人本部へ述べる機会を設け、反映されている。	年2回の個別面接や、日頃からの面談により、職員の意見や提案を聞く機会を持っている。日々のレクリエーションや行事は、職員による提案にて行われている。法人が開催する所属長会議に事業所の管理者が参加して、意見や提案ができる体制がとられている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年度始めに作成した個人目標をもとに、個人面談を行い、人事考課を法人本部へ提出している。それをもとに、本部と話し合いを行い、職員の昇進昇給などに反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	定年は65歳であるが、その後も本人の希望、能力を考慮し勤務できる体制が整っている。職員募集にも年齢性別を理由に採用対象から外すことなく、人間性重視の採用を心掛けている。職員の個性を尊重し、意欲をもって働くことができるよう、休日の調整や指導教育などホーム全体で協力している。	幅広い年代の職員が働いており、勤続年数が長い職員の割合が高い。職員採用において性別や年齢を理由に採用の対象から排除することはない。定年は設定しているが、契約を更新して働くことが可能である。資格取得やスキルアップのため法人のサポート体制もある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が小郡企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーであり、権利擁護などの研修に年に2,3回、参加している。職員に対しては、入職時に理念、人権啓発、尊厳尊重の意識付けを行い、個人情報、守秘義務の尊重について説明を行い、人権教育をしている。	人権教育は、法人の年間研修計画に取り入れられており、毎年研修を受講する機会がある。管理者が市の企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーのため、権利擁護の研修に参加している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設病院に人材育成室があり、管理者、職員が研修へ参加し学んでいる。職員のレベルに応じた研修などの情報提供や参加する機会もある。特に資格取得に関しては法人本部より支援する体制が整っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアシステム研究会、小郡三井地区介護保険研修会などへ参加し、地区の他の施設の職員や同業者と交流をしている。地区にグループホーム協議会などがいないため、全体的な交流がなく今後の課題である。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書、アセスメントなどに頼るだけでなく、まずは傾聴し、相手を受け入れることを行っている。本人を否定せず、安心してグループホームでの生活を送っていただけよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、入所契約の際、ご家族の心配、不安などを聞き、軽減できるように努めている。入所後も常に相談を受ける体制である旨伝え、何かあれば、その都度、話し合いの場を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況を様々な面から伝え、必要な福祉用具又は介助内容を説明行っている。必要であれば他の施設の紹介やご家族の負担を軽減するため、連絡調整を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは、自分で行っていただいている。入居者様の生活歴、特技、趣味などを生活の中に組み込み、人生の先輩として意見を聞きアドバイスを委ねることもある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に月に一度、ご本人の様子を「笑顔通信」で伝えている。入所後も、ご家族の思いに耳を傾けながら、職員はご家族と一緒にご本人の生活を支えるよう心掛けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人や遠方の親類などからの電話や手紙、訪問など制限することなく、対応している。生まれ育った場所が遠い方などは、動画や写真を見て、昔を懐かしんでいただいている。	馴染みの人や場所との関係性が継続できるように、コロナ禍前は自由に友人が訪れることができたり、家族と一緒に外出や外泊もよく行われていた。現在は手紙やSNSで家族や親族、友人に連絡を取ることを支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のラジオ体操、レクリエーションに参加していただき、入居者様同士や職員とコミュニケーションを図るようにしている。入居者様が馴染みの関係を支援しながら、トラブルなどは、事前に回避できるように見守り、席替えなど柔軟に対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご本人やご家族が相談しやすいよう、退所の際、その旨伝え、いつでも受け入れる体制をとっている。併設又は協力病院に入院した際も、面会に行ったり、ご家族に状況を尋ね必要な援助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々に関りの中で、入居者様の会話、表情からご本人の思い、ニーズを把握するよう努めている。認知症のため、話の辻褃が合わなかったり、内容が変わっても一つ一つがご本人の思いと受け止めている。	入居時に、利用者や家族から事業所での暮らしに関する希望や思いを聞き取っている。在宅時の情報も併せてフェイスシートやアセスメントで情報の把握に努め、職員間で共有して支援に活かしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、その他の関係者より情報収集を行い、施設のサービスに活用している。その際、ご家族などには、これまでの生活歴をより知ること、今後の施設での生活に生きてくることを説明している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペース合わせて、その時々の状態を観察しながら支援を行っている。また、日常生活を記録することで、職員間の情報の共有を図ることができている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族、主治医の意見を十分に介護サービス計画に反映できるように、常に密な関係を築いている。計画作成担当者を中心に職員で話し合いながら作成している。	入居時点では暫定プランを策定し、1～2ヶ月を目途に介護計画を確定している。以後3ヶ月ごとに見直しを行い、利用者や家族の要望やモニタリング結果の検討を踏まえ、関係者出席のもとチームで作成している。家族が遠方の場合は、電話や介護計画書の郵送により報告している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りで、個別の変化を伝え、情報を共有しながら個人日誌に記入し、介護サービスの見直しに活かしている。ただ、日誌の記入が時系列を並べただけとなっていることが多くみられるため、記録については今後の課題となっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物など、入居者様の希望や要望に応じて支援を行っている。コロナ感染予防のため、外出が難しい時も、その時々状況に応じて、支援やサービス内容を考え直し、できる限りご本人、ご家族のニーズに添えるよう支援を行った。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議で、地域の方々から情報を得、入居者様の生活に活かすことができるよう、取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、ご家族同伴の継続的な受診を推奨しているが、併設病院がかかりつけだったり、変更を希望されることが多く、その場合も柔軟に対応している。	かかりつけ医は家族や利用者の希望に添っている。他科受診は概ね事業所対応で、受診結果は家族にその都度報告している。母体の医療法人が隣接しているため、医療ニーズへの対応は適宜支援が受けられる環境となっている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、介護職員が確認した情報を管理者を通して併設の病院の外来看護師へ報告している。特変あれば内科担当医師の判断を仰ぎ、指示を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より併設病院の外来、病棟と連携をとっており、入院にもスムーズに対応できるよう、入居差様の健康状態を簡単ではあるが月に一度、提供している。退院時の流れもスムーズにいくよう、入院中の面会、病院との連携を図り、状況の把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重症化した場合、終末期についての対応をしっかりと説明し、ご家族の意思意向を確認している。できる限り対応しているが、医療が必要と判断された場合には、ご家族、主治医、看護師、施設職員が何度も話し合い、ご家族が納得、理解できるように対応し、希望する病院への入院となるよう支援している。	重度化や終末期のあり方について明文化している。入居契約時に、重度化の場合について利用者や家族に説明を行い、同意を得ている。利用者の状況変化に応じて、利用者や家族、主治医、職員等で方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時手順を掲示し、職員間で周知できるようにしている。入居者様の状況に応じ対応に変更ある場合は、職員間で共有を行っている。併設病院での研修（AEDn使用方法、緊急蘇生法）に参加している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火、避難訓練、通報訓練など、年に数回行い、そのうち年1,2回は、消防署の立会いの下、指導を受けている。併設病院の多目的ホールが福祉事務所に指定されているため、多目的ホールまでの避難訓練も行っている。	非常防災訓練は、消防署の協力のもと定期的に行っている。夜間想定避難訓練、避難場所の特定、通報訓練等にも取り組んでいる。非常用の食料や飲料水、備品等はリスト化して事業所内に保管している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に介護理念を意識すると共に、疏泄の年度ごとの目標にも言葉遣いや態度について明記し、職員一人一人が注意できるように行っている。	利用者一人ひとりの人格や誇り、プライバシーの確保等は、日頃の暮らしで特段の配慮を行っている。接遇に関する研修の実施やマニュアルの整備、ミーティングでの徹底等を実施し、支援のあり方について職員間で共有している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により意思表示ができない方にも、日常の行動や言動から感じ取るようにしている。食事会やおやつ会など定期的な催しの際は、好みを聞くなど、声掛けを多くしてコミュニケーションを深めるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、ご本人の意思を尊重できるように、起床時間や食事など時間の制限はない。ご本人のペースで生活していただけるような支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から職員が声掛けをして、身だしなみを整えることができるように支援し、その方の好みに合わせ着替えを用意したりしている。朝の洗面や入浴後は、肌のお手入れを行っていただくよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2度、入居者様の希望を聞き献立を考え、職員が食材を購入し調理を行っている。おやつ会も手作りのものを提供したり、時には取り寄せも利用している。調理手伝いは、入居者様の様子を見ながら、部分的に手伝っていただいている。	食材の調達と調理は職員が行っており、メニューは利用者の希望を取り入れて作成している。食事時間に制限を設けず、ゆとりをもって食事を楽しめる支援に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の管理栄養の下、献立を考え、調理は職員が行っている。体調や嚥下、咀嚼の状態に合わせ、刻み食やペースト食に変更可能である。毎日、食事、水分摂取量をチェックし、記録している。摂取量の少ない方には、栄養補助食品を使用するなどしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、歯磨きを実施し、入居者様の状態に応じて介助を行っている。義歯は、夕食後または就寝時に預かり、消毒洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在の能力を維持できるように、日中、夜間の区別をして対応している。原則としてオムツ、パット類の使用は最小限にし、オムツなどの使用法が適切かどうか、日常的に評価を行っている。	トイレはユニットごとに4ヶ所設置している。排泄チェック表は評価検討され、自立に向けた排泄支援に役立っている。日中、夜間帯での対応やおむつ、パット類の使用が適切であるか等、日常的に評価を行い、改善に努めている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響などを理解し、便秘予防として、適度な運動、十分な水分の摂取、腹部のマッサージなど行っている。個人に応じた緩下剤も主治医の指示の下使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に入浴の時間や曜日は決まっているが、ご本人の意思や体調を考慮し、柔軟に対応できるようにしている。拒否のある方は、無理のないように声をかけ、気分を変えて入浴していただいている。	週3回の入浴支援としているが、必要に応じて常時入浴可能な体制をとっている。足浴や清拭等の支援が行われている。入浴を望まない利用者には、無理強いせず、言葉かけや対応を工夫して、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。入浴後の保湿ケアや脱衣所のヒートショック対策がとられている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の予定をもって過ごされているが、ご本人の意思や体調を把握し、訴えなど、考慮しながら、日中、臥床していただく時間を設けている。居室の温度調整や個人に合った寝具もご家族に相談し揃えていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用されている内容のお薬手帳や処方箋を、職員全員が閲覧できるような管理を行っている。処方の変更は、体温表に記載し全員が把握できるように申し送っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、ご本人の個性（趣味、特技など）を捉えた支援ができるようにしている。家事手伝い、塗り絵、貼り絵など、ご本人の状態の把握も行いながら、負担のかからない活動をしていただいている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はグループホーム全体の行事として外出を行っていたが、車いすを使用する方が増え、2名ほどを対象とした外出やご家族との外出となっている。その為、一人一人の希望や意見に添うことができるようになった。天気や気候の良い日は、併設病院のグラウンドまでの散歩を日課としている。	天候と体調を考慮しながら、事業所や併設施設のグラウンド周辺や敷地内の売店等への散歩を日課としている。コロナ禍のため外出支援を控えていたが、今後は法人で検討し、再開に向けて検討する予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐため、認知症の状態などに応じて、金銭管理を支援している。併設する売店で買い物時、本人が欲しいものを選ぶことができるよう対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ、自ら電話をかけご家族や友人とお話ができるよう支援している。毎年、ご家族へ年賀状を送っているが、自筆できる方には、自分で一言添えていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは中庭に面し、間取りの広く明るく、天井も高く圧迫感を感じない作りである。入居者様が作った貼り絵などの工作を展示している。中庭は季節の花を植えたり、野菜作りをしている。	共用の場は、天井が高く明るく開放的で、家庭的な空間となっている。中庭に花や野菜が植えられ、季節の移り変わりを感じることができ、癒しの場となっている。テラスではお茶を飲みながらくつろぐことができ、コミュニケーションの場となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の行動を抑制せず、ご本人の意思で自由にリビングや居室で過ごしていただけるような雰囲気を作っている。ホールには食事のテーブルだけでなく、ソファや畳を置いていて、自由に使用できるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンスは施設が準備しているが、古くなったものでもご本人の思いを第一として、使い慣れたものを持ってきていただいている。新しく購入される場合も、ご本人の好まれるものを用意するようにしている。ご家族の写真を飾ったり仏壇を置かれている入居者様もいる。	居室は、利用者の安心や休息の場として必要な、馴染みの家具調度品や思い出の品々や作品等、家族や職員の支援の温もりが感じられる個性的な部屋となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーで手すりを設置し、安全に過ごせるように環境づくりを行っている。居室のネームプレートやトイレの表示もわかりやすいようにしている。センサーマットを使用している方もいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の目の届く所に、介護理念を貼り、職員が常に意識できるようにしている。終礼時に一日を振り返り、自己を省みるとともに、理念に基づいた支援を行うことができるように確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（夏祭り、初午など）に参加したり、地域の中学校の職場体験を受け入れたを行っている。入居者様にとって、中学生の訪問は、子供や孫を思い出す、良い機会になっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の中で、入居者様の生活の様子を伝えながら、認知症への理解を深めている。今後は、認知症サポートの研修開催など行いながら、施設を開放し、地域の方々が気軽に訪問できる場を作っていくことが課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域関係者の方々に参加していただき、施設の状況説明や福祉制度に関する情報交換を行ったり、地域の老人会の取り組みを聞いたりしている。地域に暮らす高齢者の状況等を知ることとなり、学びともなっている。ご意見を参考にして施設改善に前向きに取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の開催する研修に参加したり、運営推進会議に参加していただき、事業所の実情や取り組みを報告している。介護保険についての疑問などは、随時、相談するように心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていない。研修や内部の勉強会を通じて、身体拘束に関する認識を深めている。疑問に思うことがあれば、終礼の時間を利用し、意見交換や学びの時間を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、職員全員が理解し、防止に努めることができるよう、勉強会を行っている。入居者様同士もトラブルに発展しないように、職員間でも、情報の共有を行いながら対応している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が開催する権利擁護に関する研修に管理者、職員が参加している。入所時、ご家族へ制度の説明を行い、相談があれば、その都度、対応している。職員はいつでも対応できる姿勢でいる。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時だけでなく、申し込みの際も、料金については詳細に説明し、理解をいただいている。報酬加算の必要性、料金改定、重度化に伴う説明も、その都度、説明や話し合いを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時にグループホーム内の相談窓口の存在と重要事項説明書の中に外部の相談窓口を記載している旨伝え、説明を行っている。ポスターも掲示している。支払いなどでの訪問の際や電話などでこまめにコミュニケーションを図り、困りごとの相談や意見を引き出している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について困難が生じた場合、その都度、意見や提案を聞く機会を設けている。その他、意見や提案を法人本部に述べる機会を設け、反映されている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年度始めに作成した個人目標をもとに、個人面談を行い、人事考課を法人本部に提出している。それをもとに本部と話し合いを行い、職員の昇進昇給などに反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	定年は65歳であるが、その後も本人希望、能力を考慮し勤務できる体制が整っている。職員募集にも年齢性別を理由に採用対象から外すことなく、人間性重視の採用を心掛けている。職員の個性を尊重し、意欲をもって働くことができるよう、休日の調整や指導教育などホーム全体で協力している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が小郡企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーであり、権利擁護などの研修に年に2,3回、参加している。職員に対しては、入職時に理念、人権啓発、尊厳尊重の意識付けを行い、個人情報、守秘義務の尊重について説明を行い、人権教育をしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設病院に人材育成室があり、管理者、職員が研修へ参加し学んでいる。職員のレベルに応じた研修などの情報提供や参加する機会もある。特に資格取得に関しては法人本部より支援する体制が整っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアシステム研究会、小郡三井地区介護保険研修会などへ参加し、地区の他の施設の職員や同業者と交流をしている。地区にグループホーム協議会などがいないため、全体的な交流がなく今後の課題である。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書、アセスメントなどに頼るだけでなく、まずは傾聴し、相手を受け入れることを行っている。本人を否定せず、安心してグループホームでの生活を送っていただけよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、入所契約の際、ご家族の心配、不安などを聞き、軽減できるように努めている。入所後も常に相談を受ける体制である旨伝え、何かあれば、その都度、話し合いの場を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況を様々な面から伝え、必要な福祉用具又は介助内容を説明行っている。必要であれば他の施設の紹介やご家族の負担を軽減するため、連絡調整を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは、自分で行っていただいている。入居者様の生活歴、特技、趣味などを生活の中に組み込み、人生の先輩として意見を聞きアドバイスを委ねることもある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に月に一度、ご本人の様子を「笑顔通信」で伝えている。入所後も、ご家族の思いに耳を傾けながら、職員はご家族と一緒にご本人の生活を支えるよう心掛けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの友人や遠方の親類などからの電話や手紙、訪問など制限することなく、対応している。生まれ育った場所が遠い方などは、動画や写真を見て、昔を懐かしんでいただいている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のラジオ体操、レクリエーションに参加していただき、入居者様同士や職員とコミュニケーションを図るようにしている。入居者様が馴染みの関係を支援しながら、トラブルなどは、事前に回避できるように見守り、席替えなど柔軟に対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご本人やご家族が相談しやすいよう、退所の際、その旨伝え、いつでも受け入れる体制をとっている。併設又は協力病院に入院した際も、面会に行ったり、ご家族に状況を尋ね必要な援助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々に関りの中で、入居者様の会話、表情からご本人の思い、ニーズを把握するよう努めている。認知症のため、話の辻褃が合わなかったり、内容が変わっても一つ一つがご本人の思いと受け止めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、その他の関係者より情報収集を行い、施設のサービスに活用している。その際、ご家族などには、今までの生活歴をより知ることで、今後の施設での生活に生きてくることを説明している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペース合わせて、その時々の状態を観察しながら支援を行っている。また、日常生活を記録することで、職員間の情報の共有を図ることができている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族、主治医の意見を十分に介護サービス計画に反映できるように、常に密な関係を築いている。計画作成担当者を中心に職員で話し合いながら作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りで、個別の変化を伝え、情報を共有しながら個人日誌に記入し、介護サービスの見直しに活かしている。ただ、日誌の記入が時系列を並べただけとなっていることが多くみられるため、記録については今後の課題となっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物など、入居者様の希望や要望に応じて支援を行っている。コロナ感染予防のため、外出が難しい時も、その時々状況に応じて、支援やサービス内容を考え直し、できる限りご本人、ご家族のニーズに添えるよう支援を行った。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議で、地域の方々から情報を得、入居者様の生活に活かすことができるよう、取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、ご家族同伴の継続的な受診を推奨しているが、併設病院がかかりつけだったり、変更を希望されることが多く、その場合も柔軟に対応している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い、介護職員が確認した情報を管理者を通して併設の病院の外来看護師へ報告している。特変あれば内科担当医師の判断を仰ぎ、指示を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より併設病院の外来、病棟と連携をとっており、入院にもスムーズに対応できるよう、入居差様の健康状態を簡単ではあるが月に一度、提供している。退院時の流れもスムーズにいくよう、入院中の面会、病院との連携を図り、状況の把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重症化した場合、終末期についての対応をしっかりと説明し、ご家族の意思意向を確認している。できる限り対応しているが、医療が必要と判断された場合には、ご家族、主治医、看護師、施設職員が何度も話し合い、ご家族が納得、理解できるように対応し、希望する病院への入院となるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時手順を掲示し、職員間で周知できるようにしている。入居者様の状況に応じ対応に変更ある場合は、職員間で共有を行っている。併設病院での研修（AEDn使用方法、緊急蘇生法）に参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火、避難訓練、通報訓練など、年に数回行い、そのうち年1,2回は、消防署の立会いの下、指導を受けている。併設病院の多目的ホールが福祉事務所に指定されているため、多目的ホールまでの避難訓練も行っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に介護理念を意識すると共に、疏泄の年度ごとの目標にも言葉遣いや態度について明記し、職員一人一人が注意できるように行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により意思表示ができない方にも、日常の行動や言動から感じ取るようにしている。食事会やおやつ会など定期的な催しの際は、好みを聞くなど、声掛けを多くしてコミュニケーションを深めるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、ご本人の意思を尊重できるように、起床時間や食事など時間の制限はない。ご本人のペースで生活していただけるような支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から職員が声掛けをして、身だしなみを整えることができるように支援し、その方の好みに合わせ着替えを用意したりしている。朝の洗面や入浴後は、肌のお手入れを行っていただくよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2度、入居者様の希望を聞き献立を考え、職員が食材を購入し調理を行っている。おやつ会も手作りのものを提供したり、時には取り寄せも利用している。調理手伝いは、入居者様の様子を見ながら、部分的に手伝っていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院の管理栄養の下、献立を考え、調理は職員が行っている。体調や嚥下、咀嚼の状態に合わせ、刻み食やペースト食に変更可能である。毎日、食事、水分摂取量をチェックし、記録している。摂取量の少ない方には、栄養補助食品を使用するなどしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、歯磨きを実施、確認している。個々の口腔内の状態に応じた、口腔ケアを行っている。義歯は夕食後または就寝時に預かり、洗浄消毒を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在の能力を維持できるように、日中、夜間の区別をして対応している。原則としてオムツ、パット類の使用は最小限にし、オムツなどの使用法が適切かどうか、日常的に評価を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響などを理解し、便秘予防として、適度な運動、十分な水分の摂取、腹部のマッサージなど行っている。個人に応じた緩下剤も主治医の指示の下使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に入浴の時間や曜日は決まっているが、ご本人の意思や体調を考慮し、柔軟に対応できるようにしている。拒否のある方は、無理のないように声をかけ、気分を変えて入浴していただいている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の予定をもって過ごされているが、ご本人の意思や体調を把握し、訴えなど、考慮しながら、日中、臥床していただく時間を設けている。居室の温度調整や個人に合った寝具もご家族に相談し揃えていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用されている内容のお薬手帳や処方箋を、職員全員が閲覧できるような管理を行っている。処方の変更は、体温表に記載し全員が把握できるように申し送っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、ご本人の個性（趣味、特技など）を捉えた支援ができるようにしている。家事手伝い、塗り絵、貼り絵など、ご本人の状態の把握も行いながら、負担のかからない活動をしていただいている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はグループホーム全体の行事として外出を行っていたが、車いすを使用する方が増え、2名ほどを対象とした外出やご家族との外出となっている。その為、一人一人の希望や意見に添うことができるようになった。天気や気候の良い日は、併設病院のグラウンドまでの散歩を日課としている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐため、認知症の状態などに応じて、金銭管理を支援している。併設する売店で買い物時、本人が欲しいものを選ぶことができるよう対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ、自ら電話をかけご家族や友人とお話ができるよう支援している。毎年、ご家族へ年賀状を送っているが、自筆できる方には、自分で一言添えていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは中庭に面し、間取りの広く明るく、天井も高く圧迫感を感じない作りである。入居者様が作った貼り絵などの工作を展示している。中庭は季節の花を植えたり、野菜作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の行動を抑制せず、ご本人の意思で自由にリビングや居室で過ごしていただけるような雰囲気を作っている。ホールには食事のテーブルだけでなく、ソファや畳を置いていて、自由に使用できるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンスは施設が準備しているが、古くなったものでもご本人の思いを第一として、使い慣れたものを持ってきていただいている。新しく購入される場合も、ご本人の好まれるものを用意するようにしている。ご家族の写真を飾ったり、ご自分で製作された貼り絵を飾られている入居者様もいる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーで手すりを設置し、安全に過ごせるように環境づくりを行っている。居室のネームプレートやトイレの表示もわかりやすいようにしている。センサーマットを使用している方もいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）		①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2／3くらいの		
			○	③利用者の1／3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
			○	③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
			○	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		